

環境教育推進委員会報告

世話係 南澤 博
委員長 小池 辰弥

1 テーマ

『千曲・坂城地域の自然・生活環境についての課題を探り、持続可能な社会に向けて主体的に行動できる態度や資質・能力を育てる環境教育のあり方を考える』

2 活動経過

- 4月30日(木) 第1回委員会
研究テーマ、研究内容について
研究計画立案
- 6月9日(火) 第2回委員会
講演会 「やさしい放射線の話」
信州大学理学部特任教授 吉野 和夫先生
放射線の測定方法について
- 6月～7月 各校(委員が所属する)放射線測定
- 10月6日(火) 第3回委員会
放射線測定のまとめ、実践の紹介
- 12月8日(火) 第4回委員会
実践の紹介、研究のまとめと反省

3 研究内容

(1) 放射線についての講習

講師 信州大学理学部特任教授 吉野 和夫先生

内容 「やさしい放射線の話」

- ・放射線が出る仕組みや、福島第一原発から漏れ出した放射線が、その当時どのように広がっていったのかなど、具体的なデータに基づいてお話をいただいた。
- ・放射線測定は、平常値と変わらない(異常がない)ことを知るという観点で行っていけば良いことを教えていただいた。

(2) 放射線の測定結果(定点測定の平均 μ Sv/h)

学校	南条小	坂城中	戸倉小	稲荷山養護	埴生小	八幡小
放射線量	0.046	0.045	0.063	0.052	0.069	0.058

数値は新聞等で報道されている量とそれほど変わらず、人体にも特に影響のない安全なレベルだった。

教育会館にある放射線測定器は、いつでも貸し出し可能です。放射線測定を体験したい方、子どもにも放射線測定を体験させたい方は、教育会館までご連絡ください。

(3) 環境教育の実践 (別紙参照)

4 反省と次年度への課題

(1) 活動の反省

- ・吉野先生のお話をお聞きして、近年放射線について関心が薄れていることや、日頃から関心を持っていることが大切だということを教えていただいた。福島第一原発についても関心が低くなっているが、過去に大きな事故が起きたことを忘れないよう、私たち自身が考えると同時に子どもたちにも伝えていくことが大切だと感じた。
- ・実際に放射線を測定してみると、地域によって若干の差はあるが、十分安全な状態であることが確認できた。今後も続けていくことで、放射線に対する意識が継続できるのではないかと思う。
- ・環境について学習することで、日常生活の中でも環境に良いことをしていたことに気づくことができた。
- ・本年度は環境教育推進委員会の活動を多くの先生方に知ってもらうよう、各委員の実践記録をA4 1枚程度にわかりやすくまとめ、会報に載せてもらった。実践内容のポイントを絞ってまとめるという意味でも良かった。

(2) 次年度への課題

- ・毎年継続して放射線を測定することを通して、過去の福島原発事故を子どもに伝えていくことは大切であると感じた。
- ・委員会の活動を広く知ってもらうためにも、委員の先生方にまとめていただいた環境教育実践レポートを会誌へ載せていただくことは大切だと思う。
- ・講演会への参加を呼びかけたところ、興味を持って参加してくださった先生方がいた。来年度も引き続き行っていくと良いと思う。
- ・本年度は環境教育推進委員会のレポートを会誌に載せていただいた。より多くの学校の実践から学ぶという観点から、毎年違う学校の先生方で委員を構成していくと良いと思う。

5 委員会の構成

世話係 南澤 博(南条小長)

委員長 小池 辰弥(戸倉小) 副委員長 笠原 光枝(稲養)

委員 太田 文昭(南条小) 近藤 佳子(埴生小)

岡田 芳宜(八幡小) 安部 元彰(坂城中)